アーカイブ室新聞　（2009 年 10 月 22 日　第 243 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　リーズのマイクロフォトメーター搬入

マイクロフォトメーターは写真乾板で分光観測のスペクトル撮影が行われていた時代には、スペクトル解析に必須の測定器械であった。このリーズのマイクロフォトメーターは昭和 26 年 10 月に購入されたものでアメリカ製である（写真 1）。筆者が三鷹の東京天文台に来た昭和 41 年頃には、本館(二)と呼ばれた分光部の東端の大きな実験室にあった。その時、すでに使われておらず、すでに日本製のナルミのマイクロフォトメーターが活躍していた。このリーズのマイクロフォトメーターを使った人はすでにこの世にはおられないのではないかと思う。この器械は本館(二)を他に明け渡す際、基線尺倉庫に持ち込み保管されていたために、捨てられることがなかった。

写真 1　リーズのマイクロフォトメーター

このマイクロフォトメーターの特徴は、スペクトル乾板を垂直に置くことである(写真 2)。また、大きなチャートレコーダーなどのラックがある。恐らく、日本に入ってきたマイクロフォトメーターの最初のもので、それ以後、研究者が自作する事も多かった。筆者の知る限り末元マイクロフォトメーター、日栄井マイクロフォトメーターなどという言葉があ

った。天文機器資料館には、ナルミの最後のマイクロフォトメーターと思われる器械が水沢から譲られて展示してある。

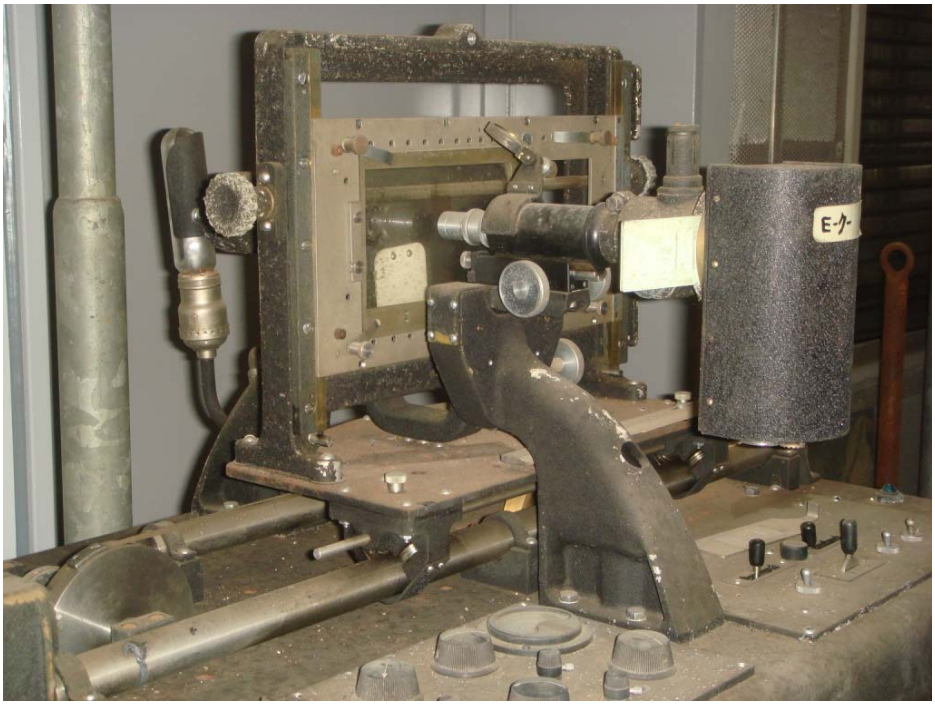

写真２　スペクトル乾板は垂直に置かれた

写真３が、名盤である。シリアル No.798636 とあるが、マイクロフォトメーターがそんな数を製作されたとは思えないから LEEDS & NORTHRUP CO.の製品の全ての No.か、上位何桁が製品を現す番号であろう。

写真３　リーズマイクロフォトメーターの名盤

今回、PZT をかなり痛みの激しくなった観測室から天文機器資料館に移設する機械に、このマイクロフォトメーターも移設し、掃除をして展示した。